

経済概況

金融政策レビュー - 2024年7月

2024年7月10日(水)

「委員会はこのほど政策金利(OCR)を5.50%で維持するとの合意に達した。」

予想された通り:

「委員会は引き続き制限的な金融政策が必要という点で合意した。この抑制の程度は、予想されているインフレ圧力の低下に合わせて、時間の経過とともに緩和されるだろう。」

良いニュース:

「ニュージーランドの制限的な金融政策が国内需要と消費者物価上昇率を低下させる働きをしていることに異論はなく、委員会としては、2024年後半にインフレ率が1.0%~3.0%の目標範囲内に戻るとの見方を強めている。」

あまり良いとは言えないニュースも:

「委員会は、最近の高頻度データが事業活動の短期成長の弱まりを示唆していることに言及した。事業および消費者を対象とした様々な調査、そして支出と信用に関する高頻度データはすべて活動の鈍化を示している。」

ハントレーダブルについては触れないが:

「国内のインフレ対策は依然続くが、国内経済における過剰生産能力の拡大により持続性のある低下になることについて確実性が高まっている。」

これは朗報と解釈できるのか:

「委員会はインフレの見通しに対するリスクのバランスについて議論した。短期的に国内主導のインフレがさらに続く可能性があるというリスクは複数の委員が指摘した。一方、消費者物価指数が低下するにつれて、価格設定行動とインフレ期待がより急速に正常化するリスクもある。」

コメント:

今回の声明では引き続き制限的な金融政策が必要であることが強調されましたが、抑制が「時間の経過とともに緩和される」との予測や「消費者物価指数が低下するにつれて、インフレ期待がより急速に正常化する」といった表現は、少なくともある程度肯定的な見方を示していると言えます。OCR引き下げについて明確な言及がなかったのは事実ですが、5月の金融政策声明と比べると、トーンが軟化しています。さらに、インフレ率が今年下半期に1.0%~3.0%の範囲に戻るとの予測の記述は、中期的にインフレ率をその範囲内に抑える役割を担うニュージーランド準備銀行(RBNZ)がOCRの引き下げに踏み切る可能性を裏付けるものです。

RBNZは先の5月、2025年までは引き下げはない、とタカ派的な姿勢で声明を出していましたが、今回はそこから一步退いて、サイクルの土台づくりに向かって見受けられます。ただし、その始まりが実のところいつになるのかはまだ判然としません。

マーケットへの影響:

この声明の「ハト派性」はすぐにNZDに重圧をかけ、主要貿易相手国に対して為替は下落しました。これにより、NZD/USDは0.6100水準まで下落し、NZD/AUDは18か月ぶりの安値である0.9020で取引されました。スワップ市場でも同様の動きが見られ、ショートエンドでは10bps~11bps、ロングエンドでは6~8bpsのレート低下で即座に反応。フラットニング・バイアスが生じました。2年×2年の先スタート型スワップも3.90%の水準を下回り、3.88%になりました。



BANCORP
BANCORP TREASURY SERVICES LIMITED

Barrington
TREASURY SERVICES

Barrington
ASSET CONSULTING



BANCORP
BANCORP CORPORATE FINANCE LIMITED